

講義科目名称： 総合実習

授業コード： 1650400700

英文科目名称： Comprehensive Nursing Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、◎石田和子、◎常盤洋子、◎大久保明子、◎小長谷百絵、◎谷本千恵、◎高林知佳子			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 90時間</p> <p>【担当教員】</p> <table border="0"> <tr> <td>【氏名】</td> <td>【研究室】</td> <td>【メールアドレス】</td> </tr> <tr> <td>◎岡村 典子 (基礎看護学)</td> <td>216</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎石田 和子 (成人看護学)</td> <td>317</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎常盤 洋子 (母性看護学・助産学)</td> <td>320</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎大久保 明子 (小児看護学)</td> <td>207</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎小長谷 百絵 (老年看護学)</td> <td>213</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎谷本 千恵 (精神看護学)</td> <td>312</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎高林 知佳子 (地域看護学)</td> <td>304</td> <td></td> </tr> </table> <p>看護系教員(教授、准教授、講師、助教等で分担) 実務経験のある教員が担当します</p> <p>【本学の科目区分】 専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 ○ ○ ◎ ○ ○</p>	【氏名】	【研究室】	【メールアドレス】	◎岡村 典子 (基礎看護学)	216		◎石田 和子 (成人看護学)	317		◎常盤 洋子 (母性看護学・助産学)	320		◎大久保 明子 (小児看護学)	207		◎小長谷 百絵 (老年看護学)	213		◎谷本 千恵 (精神看護学)	312		◎高林 知佳子 (地域看護学)	304	
【氏名】	【研究室】	【メールアドレス】																							
◎岡村 典子 (基礎看護学)	216																								
◎石田 和子 (成人看護学)	317																								
◎常盤 洋子 (母性看護学・助産学)	320																								
◎大久保 明子 (小児看護学)	207																								
◎小長谷 百絵 (老年看護学)	213																								
◎谷本 千恵 (精神看護学)	312																								
◎高林 知佳子 (地域看護学)	304																								

到達目標	学生の個々の学習課題に対応した病院や地域の実習場所を選定し、現実に即した看護活動および、課題に対応した看護を総合的に実施しながら学ぶ。具体的には各専門領域の対象者を受け持ち、看護過程の展開や、専門的知識・理論を活用した看護援助を実践しながら、統合的な看護能力を培う実習の他、多重課題への対応や、一勤務帯および夜間の実習などを通して、専門的・統合的実践能力を養うとともに、自らにとっての「看護とは」をあらためて吟味する機会とする。
授業概要	自分の学習課題に焦点を当て、自らの実習目標をふまえて実習計画を立案し、担当教員の支援の下で実習を行う。
授業計画	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>学習課題：各自の学習課題を実習で学ぶ</p> <p>学習内容：実習方法 指導教員のもとに病院・施設・地域などにおいて各自の計画に沿って実習する。</p> <p>実習期間 10日間程度</p> <p>注意事項 実習施設については、別途提示する。本学の契約施設を中心に選択する。</p> <p>備考：</p>
事前・事後学習	事前学習：1～3年次に受講した講義・演習・実習での学習内容や自己の課題、看護技術到達度リストなどを振り返り、各領域の実習目標を達成するために関連する知識・技術の復習を行う。 事後学習：実習記録やレポート等として学習内容を整理し、学習上課題となった知識や技術を自己学習する。 *その他、各実習領域で指定された事前・事後学習を実施する。
評価方法、評価基準	実習へ取り組む姿勢、実習記録物、成果報告発表、レポートなどにより評価する。評価は実習担当教員が責任を持つ。評価方法や評価基準の詳細は、各実習領域で提示する。
必携図書	特に指定しない。
参考図書・資料等	実習の進む過程で各教員より適宜紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	実習オリエンテーション時に示されるルールにより、指導教員の指示に従って実習する。
教員からのメッセージ	指導教員と十分相談し、指導を受けながら行ってください。また、実習場所とよく連絡をとり、チームメンバーや多職種の人々との調和を図るように努めて実習してください。
オフィスアワー	